

【版画】

○版画技法の種類

- ・**凸版**…版の凸部に絵の具やインクをつけ、それを刷り取る。
- ・**凹版**…版の凹部にインクを詰め、不要なインクをふき取り、プレス機で刷り取る。
- ・**孔版**…インクの通り抜ける穴の部分を通して、インクが刷り込まれる。
- ・**平版**…平らな面にインクが付く面とつかない面をつくり、刷り取る。

【絵の具について】

・絵の具は、色の素である**染料**や**顔料**(粉状)と、それを紙などに固定するための**展色剤**(液体で、どろどろとしている)でできている。

○展色剤の種類

- ・**アラビアゴム**…顔料とこれを混ぜたものが**透明水彩絵の具**(透明水彩)。
- ・**デキストリン**…顔料とこれを混ぜたものが**ポスターカラー**(不透明水彩)。
- ・**アクリル樹脂**…顔料とこれを混ぜたものが**アクリル絵の具**(透明水彩と不透明水彩のどちらの性質も持っている)。
- ・**油**…顔料とこれを混ぜたものが**油絵の具**。

○顔料の種類(例)

●**天然顔料**…自然界から作る、伝統的な顔料。

- ・**カキの貝殻**: 白色の顔料に用いられる。・**辰砂**: 鉱物。赤色の顔料に用いられる。・**孔雀石**: 鉱物。緑色の顔料に用いられる。
- ・**ラピスラズリ**: 青色の顔料に用いられる。

※今では科学技術を利用した**人工顔料**が主流である。また、人工顔料がつくられたことで、利便性にある、顔料と展色剤が別々ではない、**チューブ式の絵の具**が使われるようになった。

【デザインセットの使い方】

・基本的な絵の具の溶き方は、絵の具に対しておよそ半分の水、つまり絵の具と水の比がおおよそ2:1で、かたまりの無いようにしっかりと溶く。(感覚的には「飲むヨーグルト程度」)である。

○筆の種類

- ・**面相筆**…細い線、細かいところをぬる用途。・**彩色筆**…タッチ(筆跡)を活かして書く用途。
- ・**平筆**…広いところを筆跡が目立たないようにぬる用途。(そのようにぬるには、縦方向にぬった後に横方向をぬる操作を繰り返す)。



○その他の使い方

- ・水は絵の具を溶くための水と筆を洗うための水を分けて使う。
- ・筆は使い終わったら筆の根元もしっかり片付ける。

【鉛筆の濃さ】

・鉛筆の濃さは次のような濃さの種類がある。

〈JIS 規格〉

6H・5H・4H・3H・2H・H・F・HB・B・2B・3B・4B・5B・6B・7B・8B・9B (全17種、左から薄い順で)

〈三菱鉛筆「ハイユニ」〉

10H・9H・8H・7H・6H・5H・4H・3H・2H・H・F・HB・B・2B・3B・4B・5B・6B・7B・8B・9B・10B (全22種、左から薄い順で)

※なお、Hは **hard**(かたい)、Bは **black**(黒い)、Fは **firm**(しっかりした)からきている。